

書く力を伸ばす関わり方

一人ひとりに合った方法で書くことで、お子さんが本来持っている力を発揮しやすくなります。感覚を刺激することで身体の使い方を意識させたり、支援ツールを使ったり、覚え方を工夫したりしましょう。

運筆コントロールに苦手さがある場合 触覚(指など)を活用しよう

運筆をするためには、肩甲骨周りや腕の筋力、手指をしなやかに使う力、指先の器用さ、目と手の協応が大切です。

指なぞり書き

指先に力を入れることで文字を書くときの力加減がわかりやすくなります。また、よく見て指で書くことで脳が刺激され、文字を覚えやすくなります。

ポイント

- 力を入れて、指のお腹で書こう！
- ゆっくりと書き順を言いながら書こう！

こんな方法も 他の物で指書きをしてみよう！

砂やクリームなど普段触る機会の少ないもので練習すると、触覚が強調されるので、覚えやすくなります。

ステップアップ～そらがきをしてみよう！～

人差し指で空中に文字を書いてみましょう。お子さんといっしょに画数を声に出したり、文字のはねやはらいに注目しながら練習したりすると正しく覚えているのか確認できます。

こんな方法も・・・

- 紙やすりを紙の下に敷いてみよう！
ザラザラした材質で感覚が入りやすくなります。鉛筆の動きがわかるため、文字のとめはね動作の切り替えを意識できます。
- ホワイトボードに字を大きく書いてみよう！
全体全体を使って大きく字を書いてみましょう。立って書くことで姿勢も安定します。
- 文房具を工夫してみよう！
滑り止め付きの定規、鉛筆用グリップ、カドの多い消しゴムを活用してみよう。手指に感覚が伝わりやすくなるために、力加減をコントロールする練習になります。

字体・字形をバランスよく書くことが苦手な場合 視覚(形のイメージ)を活用しよう

線の重なりや文字の配置を理解する力を伸ばしましょう。

ひらがな色分け

文字がどのような線の組み合わせで成り立っているのが、色分けをすることでわかりやすくなります。

空間の色分け

空間の位置関係を捉えやすくなることで、文字のパーツの配置がわかりやすくなったり、書き始めの位置が決まりやすくなったりします。

こんな方法も・・・

ステップアップ～単語を書くときに～

小さく書く特殊音節(促音「っ」、拗音「ゃ行」など)の書き位置を枠で示すとわかりやすくなります。

やきゅう → やきゆう

文字を正確に覚えることが苦手な場合 語呂合わせやパズル・成り立ち(ストーリー)を活用しよう

人によって得意な覚え方のタイプが異なります。下記の2つのタイプのどちらの方が覚えやすいのか考えてみましょう。

部分→全体理解タイプ

最初から文字のパーツを一つずつ付け加えていって、全体像がわかるように、書き順を伝えたり、「へん」と「つくり」の構成順序を意識したりできると覚えやすいでしょう。

語呂合わせ

例：お日さまと青いそらで晴れ
言葉を使ってイメージできるお子さんにおすすめです。書き順に従って、漢字の要素ごとに分けて作りましょう。リズム感のある短文を使うと楽しみながら取り組みます。

全体→部分理解タイプ

文字の全体像(完成形)を見せて、文字のパーツ同士の位置関係や意味を意識すると覚えやすいでしょう。

漢字パズル

例：部
音? 木 冫

全体像を理解したあとにまとまりを分解し、パズルのように再構成することで覚えやすくなります。

成り立ち

例：休
人が木の横にいる様子を示している

漢字の形と成り立ちの過程を物語として関連づけると覚えやすくなります。

お子さんと関わる時に大切にしたいこと

書くことだけに苦手さがあるお子さんについては、ICT(タイピング等情報通信技術での入力)が有効な場合があります。苦手な「書く」量を減らして、理解力や記憶力を生かすことにより、学習へのやる気をアップさせることができます。

「書き」の苦手さの背景には、「読み」(文字と音の対応など)の苦手さが関係している場合もあります。「読み」と「書き」のつながりを意識して学ぶことが大切です。

関連

今号と併せて、ぜひご覧ください。
Gpress49号 「読みのしくみを知らう～苦手さに気づくヒントと対応例～」
Gpress38号 「学習障害(LD)の理解と対応」